

SUPERBIKE

EXtra, EXpert and EXtreme

EXPRESS

ダブルウインを狙うデチャ・クライサー 包囲網を狭める中富、小林、渡辺、津田、大崎ら日本勢 チャランポンはまさかの負傷でレース2を欠場



オートポリス スーパー2&4レースを迎えた全日本ロードレース選手権。昨年に続き一番の激戦区となっているST600クラスのみが開催され、土曜日にレース1、日曜日にレース2が行われる2レース制が採用された。オートポリスは、このシーズンオフに路面を全面改修したため、走りやすくなっておりコースレコード更新は必至の状況だった。

今回のレースは事前に合同テストはなかったが、ライダーによってはスポーツ走行を走っていた。中でも暫定ランキングトップを走っているYamaha Thailand Racing Teamのチャランポン・ポラマイは、これまでのレコードタイムを大きく上回る1分52秒7をたたき出して、公式予選でも注目のライダーの一人だった。

今回の公式予選は、ST600クラスでは、この大会が唯一ノックアウト方式を採用していたが、金曜日の走行が雨となったため、まず20分のウォームアップ走行があり、30分のQ1でレース1のグリッドが決まり、Q2には、上位24台が進出し、レース2のグリッドを決めるという変則的なノックアウト予選となった。

ウォームアップ走行では、いきなりアクシデントが起きた。第2ヘアピンでチャランポンと清水直樹が接触し転倒。大きなケガがなかったのは不幸中の幸いだったが、短いインターバルで何とかマシンを修復し、Q1に臨んでいった。このQ1で驚速振りを発揮したのが津田だった。セッション開始直後に1分52秒547をたたき出し、レース1のポールポジションを獲得した。2番手にデチャ・クライサー、3番手にチャランポンと続き、前戦で表彰台に上がった3人がフロント

ロウを占めた。以下、11番手までのライダーがコースレコードを更新する予選結果となった。

続くQ2では、チャランポンがただ一人1分52秒7をマークしレース2のポールポジションを獲得。2番手にデチャ、3番手に津田と同じメンバーがフロントロウに並ぶ結果となった。

迎えたレース1。好スタートを見せたのは、デチャでホールショットを奪う。以下、津田、チャランポン、中富伸一、小林龍太、渡辺一馬、稲垣誠と続いていく。そのままデチャがレースをリードするかと思われたが、2周目に入るホームストレートでは、小林がトップに浮上。デチャ、津田、中富、チャランポン、渡辺、稲垣、横江竜司、大崎誠之、井筒仁康が追う。しかし、3周目には、デチャがトップに出ると、それに呼応するようにチャランポンも2番手に上がる。津田もタイヤマハの2人を逃すまいと3番手に浮上。小林と中富も続き、レース序盤は5台がトップグループを形成していた。津田は、4周目に、このレースのファステストラップをマークし、さらに前を伺っていたが、6周目の第2ヘアピン前でエンジンプロー。無念のリタイアとなってしまふ。この津田のマシントラブルで小林、中富が遅れてしまい、トップ争いは、デチャとチャランポンの一騎打ちとなる。このチームメイト同士の争いは、最終ラップにデチャとチャランポンが接触。チャランポンは転倒し、右アゴを開放骨折する重傷を負ってしまう。デチャは、そのままトップでチェッカーを受け念願の全日本初優勝を飾った。2位争いは、最終ラップの第2ヘアピンで前に出た中富が制し、小林、渡辺と続いた。

レース1は無念のマシントラブルとなった津田拓也
レース2で巻き返しを狙っている

予選4番手グリッドからスタートする大崎誠之
土曜日はツキがなかっただけに、レース2はいい成績を残したいところだ



レース1表彰台 / (左から) 中富伸一、デチャ・クライサー、小林龍太

決勝 レース1 結果 (15位まで)

●決勝レース1(16周) / Weather : 曇り / 18.7°C / 37% Track : ドライ

Pos No.	Name	Team	RaceTime
1	30 Decha Kraisart	YamahaThailandRacingTeam	30'33.183
2	43 中富 伸一	HITMAN RC甲子園ヤマハ	30'35.770
3	634 小林 龍太	MuSASHI RT/ハルクプロ	30'35.947
4	3 渡辺 一馬	Kohara Racing	30'36.761
5	77 井筒 仁康	RS-ITOH&ASIA	30'46.213
6	62 横江 竜司	RT森のくまさん佐藤塾仙台	30'48.714
7	6 佐藤 裕児	HITMAN RC甲子園ヤマハ	30'51.930
8	19 伊藤 勇樹	DOG FIGHT RACING-YAMAHA	30'52.445
9	17 稲垣 誠	アケノスピード-MIC	30'53.356
10	33 西嶋 修	SPA直入インスタwithフィービー	30'54.734
11	25 清水 直樹	Express HouYou	31'07.456
12	23 手島 雄介	CLUB PLUS ONE	31'08.813
13	12 岡村 光矩	RSグレージング&ドリーム北九州	31'09.102
14	82 原田 武人	グリーンクラブ能塚	31'13.403
15	28 藤島 翔太	4Sure ホンダドリーム名古屋西	31'15.388

レース1のトップ争い。レース2のポールポジションを獲得した#65チャランポンは、ケガのためレース2は欠場となる



INTERVIEW

デチャ・クライサー
全日本
初優勝!!



Race1 Winner **デチャ・クライサー**
YamahaThailandRacingTeam

「優勝できて本当にうれしいです。これもチーム、スポンサー、応援してくれる皆さんのサポートのおかげです。ずっとピア(チャランポン)が後ろにいたので、当然仕掛けてくると思っていました。レース序盤から来ると思ったけれど、来なかったんで、仕掛けて来たら、そのときにレース展開を考えようと思っていました。去年は、レース1で転倒して、小指を骨折し悔しい思いをしたので、勝つことができよかったです。ただ、ピアが負傷してしまったので心配ですね」